

# 一主婦からの新発田市政通

皆様これで良いですか

発行者 青木三枝子（市政を考える会）

新発田市御幸町 3-1-21

TEL 0254-26-8334

26号

平成 26 年 8 月 6 日 第 26 号

## 1 箱物予算増大は何処まで許されるのですか

7 月 25 日に臨時議会が開催されました。新庁舎建設工事に関する契約締結についての議案と駅前複合施設の補正予算についての議案が委員会付託され、委員全員の賛成によって採択されました。委員会を傍聴し疑問に思うことをお伝えします。

① 新庁舎建設総事業費が 70 億円以上かかります。 今回の契約締結は 3 つに別れ、それぞれ共同企業体との間で締結されました。建築本体（約 43 億 1 千万円）は再入札後の随意契約、電気設備（8 億 1 千万円）と給排水衛生設備（約 1 億 7 千万円）は再入札によって契約が締結されました。あと空調設備に関する契約が残っています。これらの契約締結後の予算額は、労賃や資材が高騰すれば物価スライド方式が適応される予定であり、実際の予算はさらに増大することが予測されます。これらの予算に加えて、現庁舎の解体工事、土地購入費等、その他の費用を合わせると約 70 億円以上の費用がかかると予測されます。予算増大の原因として労賃や資材が高騰している為といわれていますが、この予算増大は財政的に何処まで許されるのでしょうか。一方、議員より新発田市の現場の労賃は上昇していないという意見がでていました。建設業界のピラミッド状の下請け制度のなか、大きな利益を上げるのは、誰なのでしょう。

② 駅前複合施設総事業費は約 40 億円です。 この施設は当初の総事業費約 22 億 5 千万円、基本設計後 32 億 6 千万円、実施設計後約 40 億円と大きく増大しました。工事費用が約 36 億円、その他、民有地購入費用等約 4 億円という計算です。駅前複合施設を 4 階建てにすると 40 数億円となり健全財政が保てないので、3 階建てにし約 33 億円の予算としたと行政は答えていました。市長も平成 26 年 2 月 27 日の本会議において、健全財政を死守するために、今出来る精一杯の財政出動が 32 億 6 千万円であると述べていました。それが今回、当初予算の約 2 倍の約 40 億円となっているのです。補助金があるので新発田市の負担は約 7 億円（駅橋上化も市の負担は同程度）とのことですが、労賃や資材高騰の中、費用増大は何処まで許されるのでしょうか。

③ 当初、新庁舎の建設は地元業者が行う方向となっていたようですが、競争入札公告の直前に商工会議所から大手の業者を入れて欲しいとの要望があり、大成建設を入れ、新発田建設、伊藤組の共同企業体との間で随意契約を締結したとのことです。新庁舎の建築では、免震の為の建築技術が求められているとのことですが、商工会議所はどのような立場や意図で大手企業を入れることを要望したのでしょうか。

「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」という絵本の中の引用文に「貧乏とは、少ししか持っていないことではなく、限りな

く多くを必要とし、もっともっとと欲しがることである」とありました。権力の頂点に立った人の、際限がないと思われるような今の箱物市政に憤りを覚えます。

## 2 住民サービスの低下を招きませんか

新庁舎と駅前複合施設建設による現段階での市の負担（借金）は、新庁舎約 19 億円、複合施設約 7 億円、合計約 26 億円です。その

他、あちこちで行われている道路整備事業、駅前周辺の整備事業（地下エレベーター設置を含む）、二葉小学校の改築工事等でも予算が増大しています。これらの借金を 26 億円に上乘した場合、健全財政維持の為の市の貯金約 30 億円を死守できるのか疑問です。

これを死守する為には、他の予算を削減する必要があると考えます。或る町内では、側溝清掃の回数が減った、壊れた公園遊具が修理されず放置されている等の声を聞いています。今後、さらなる住民サービスの低下を招くのではないかと危惧しています。

## 3 近隣図書館を見学してきました

県立図書館、新潟市立豊栄図書館、新潟市立新津図書館、聖籠町立図書館を見学してきました。県立図書館は、書架が放射状にゆったりとした間取りで置かれ、その向こう側には緑に囲まれた癒しの空間がありました。この場所であれば一日中でも居たいと思いました。豊栄図書館の開館 10 周年記念誌に寄せられた寄稿文を読みました。そこには市民と行政が共に作り上げたという誇りと図書館への愛着が溢れていました。新津図書館は効率的でコンパクトな造りでしたが、図書館としての落ち着いた空間がありました。一方、聖籠町立図書館は都会の本屋さんの様であり、落ち着きませんでした。

新発田市の図書館はどのような図書館となるのでしょうか。県立図書館以外は約 11~15 億円の総事業費で建設されています。これらは単独の図書館ですので比較できませんが、新発田市の複合施設はそれらの約 3 倍の費用がかかります。40 億円という予算をかけ、拙速に駅前複合施設を建設する事が本当に正しい選択だったのでしょうか。私は、歴史ある現図書館所在地に、新発田の歴史を大切にしたい、未来の子ども達が誇りと愛着を持てるような図書館を含む複合施設を、低コストで建設する方法があったと思っています。

## 4 通信 25 号の訂正とお詫び

私の通信は、議会事務局の議員宛のポストに入れさせて頂く際、事務局にも渡しています。通信は他の課にも渡り、職員の皆様も読んで下さっているのか、先の通信 25 号の内容に関し、御指摘を受けました。駅前複合施設管理運営ワークショップの資料にあったのは経営収支ではなく経営計画でした。また、渡っていた通信 25 号最後の「身の丈に合わない金銭感覚を失った市政」という文がおかしいと御指摘を受けました。既に「身の丈以上の、金銭感覚を失った市政」と訂正していました。お詫び致します。

文章の間違い、誤字は勿論のこと、内容にできるだけ間違いのないよう伝えなければと自分自身を戒めています。

## 5 若者の将来が殺し殺される世でないことを

7 月 1 日集团的自衛権容認が閣議決定された日に通信 24 号を駅前配っていました。そこへ自衛隊の車が 2 台入ってきました。20 人以上の若い自衛官が制服を着用し、同じ鞆を持って下車してきました。大きな鞆を歩道一杯に置いた様子を見て、ここは歩道であり歩行者の迷惑になるので片付けるように注意しました。集团的自衛権を容認しようとしている政府への腹立たしさもあり厳しい口調で注意しました。しかし、彼らの顔を見ると、自衛隊が今どのような状態に置かれているのかまるで考えていない、幼いと思えるような顔でした。憎むべきは自衛隊員なのではなく、彼らを戦争に巻き込もうとしている人間です。将来、この若者達の中の誰かが命を失ったり、また他国の人たちを殺したりする日が来るかもしれないと思うと、この若者達が愛おしくなりました。そのような日が来ない事を願います。